

光線医療センターの委員に歯科口腔外科学講座の山縣 憲司教授が御就任

この度、本格的な光線医療技術の開発、普及を目指した光線医療センターの委員に加えていただき、井上啓史センター長をはじめスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

2025年9月1日付けで高知大学医学部歯科口腔外科学講座の教授に着任致しました山縣 憲司（やまがた けんじ）と申します。1997年に北海道大学歯学部を卒業後、地元である茨城県の筑波大学附属病院歯科口腔外科に入局し28年、教官としては20年をつくばで過ごしました。入局当時は口腔癌などの口腔外科疾患に特別興味があるわけではなく、全身疾患を知らないで歯科治療を行うことの不安を感じ、医学部歯科口腔外科を選びました。筑波大学は6年間のレジデント研修期間があり、その間、口腔癌および顎変形症治療に興味を持ち、これらの疾患を専門的に担当するようになりました。口腔は狭い領域に、舌、口底、上下顎骨、頬粘膜、口底など含まれ、構音、摂食嚥下などの生きていく上で不可欠な様々な機能があります。特に口腔癌に関しては、切除で機能障害を生じるため解剖を熟知し繊細な手技が必要で、機能回復のための再建手術、リハビリテーションなどが必要になります。

口腔癌治療は手術が治療の主体となります。それ以外に補助的に放射線療法、化学療法が行われ、最近、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬も加わりました。また、切除不能な再発、転移症例でアルミノックス治療が保険適応になりました。EGFRモノクローナル抗体に光感受性物質IR-700を付加した薬剤を投与し、690nmの光を照射し腫瘍特異的に光化学反応が起こり、腫瘍細胞の細胞膜を傷害することにより殺細胞効果を示す治療です。耳鼻咽喉科頭頸部外科では2021年から保険適応となり、すでに多くの治療が行われておりますが、歯科口腔外科では2023年12月から適応となりました。筑波大学で治療経験をし、口腔アルミノックス治療指導医を取得しております。当院でも安全に治療できる適応症例に対し治療を行い、症例を蓄積し臨床、基礎研究に発展できればと考えております。

また、ベンチャー企業と研究計画中ですが、IR-783リポソーム＋近赤外線（NIR）治療の研究も実現できればと考えております。光線力学療法（PDT）にNIRで励起され高透過性を持つIR-783を用います。従来のPDTは組織深達度が限られ深部腫瘍の治療が困難とされましたが、IR-783は782nmに最大吸収波長を持つNIR光で励起されるため、深部組織への効果が期待できます。このIR-783をリポソームに封入しドラッグデリバリーシステムとして応用することで、EPR（Enhanced Permeability and Retention）効果を利用したがん組織への選択的集積を促し、正常組織への影響を抑え治療効果を高めることができます。リポソームの最適化により、有害事象の軽減、患者QOLの維持、個別化医療の促進に寄与し、口腔癌の新たな治療選択肢となる可能性があります。光線医療センタースタッフの皆様、これまでの様々な研究実績、経験などからアドバイスをいただき、共同研究をできればと考えております。今後とも御指導の程よろしくお願い致します。



光線医療センター ニュースレター

2025年 11月 25日 発行

発行責任者・編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

文責：福原 秀雄

<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/CPDM/index.html>